

ろくおん通信

発行日： 1990年7月15日

No. 27号

発行者： 盲人情報文化センター録音製作

図・表・写真の読み方

図・表・写真の説明ではいつも苦勞されている事と思います。これがなければもっとすらすら早く仕上がるのと思っている方もいらっしゃるかもしれませんね。そこで今回は、図・表・写真の説明の際の留意点のいくつかをあげてみました。これですべてというわけでもありませんし、本によってはこの通りにいかないものもあるかと思いますが、この上に皆様の色々な工夫を加えて頂き、聞き手に、よりわかりやすい読み方を考えて下さい。

1. その図・表・写真の説明が必要か必要でないか判断する。

(マニュアル116～117、123ページ。処理1、省略する場合。処理2、説明する場合。=参照)

2. 説明を入れる箇所を考える。

3. 説明の順序。

(マニュアル117、123ページ。=参照)

最後の「説明おわり」は、マニュアルでは「図説明おわり」と両方を例としてあげていますが、一冊の本の中では、どちらかに統一するのが望ましいでしょう。

4. あらかじめ文章化する。

あまり長い文にならないよう、また、わかりやすい一般的な言葉で、簡潔に説明する。

5. 見えるままを説明する。

本文の中身をつけ加えたり、自分の知っている事をつけ加えたりしない。又、自分の感じた事を言ったりせず客観的な表現をする。

6. 図・表・写真についているタイトル、説明文、補足事項などは原文通りに読む。説明の中に組み入れたり、余分な言葉を添えない。

7. 説明は、始めに全体の説明をする。

その図・表・写真が何を表わしたものを始めに簡単に説明し、その後で部分的な説明に入る。

8. 表を読む場合。

表は項目数にもよりますが、少なくとも始めの一行だけは各項目名を読んで数値を読む。

9. 長い説明の場合。

最後には「図、○○○○説明おわり」「表、○○○説明おわり」と入れた方が分かりやすい。

10. 最後に、実際にテープに録音する時に。

「説明」の言葉の前後に一拍ほど間をとり、その後の説明は、他の原文より心持ちゆっくり読む。文章化したものを読むとどうしても早くなりやすい。原本と、音訳者の説明が同じようにならないように、聞き手が頭に描けるように読むことが大切です。

以上

調査について

漢文

古典、歴史書を音訳する際、難解な成語を調べるのも大変ですが、その上にたった一行でも、漢文、古文の引用があると下調べにかなりの時間をかけることになります。

勢不可使尽

上記の漢文に返り点をつけます。

勢不可使尽 (勢い使い尽くすべからず)

返り点つけ方によっては、意味が異なってしまうことがあります。

卑弥呼以死 大作家

→卑弥呼以死 大作家「卑弥呼、死を以て大いに塚を作る」

→卑弥呼以死 大作家「卑弥呼以て (既に) 死す、大いに塚を作る」

では、意味が大変に異なります。長文を読み下すのは、それだけで論文もの?と思うこともありますので、その度に音訳処理に悩みます。

昨年より行われた、石川優子先生の講義テキストは漢和、古語辞典と格闘する手間が省け、大変重宝です。今回と、次回の『ろくおん通信』に2回に分けてテキストを紹介します。

正誤表から……その4

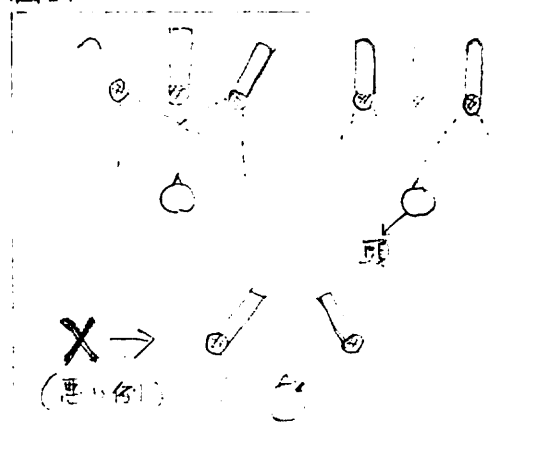
語句	誤読	正しい読み	語句	誤読	正しい読み
思惑が・・	シワクが・・	オモワクが・・	紋様	モヨウ	モンヨウ
緩やか	オダやか	ユルやか	登用	トヨウ	トウヨウ
追隨	ツイジュウ	ツイズイ	路肩	ロケン	ロカタ
眉間	ビケン	ミケン	解毒	カイドク	ゲドク
内省的	ナイシヨク	ナイシヤク	地軸	ジジク	チジク
呪術	ジュウジュツ	ジュジュツ	紛糾	フンキョウ	フンキユウ
元凶	ガンキョウ	ゲンキョウ	論駁	ロクバク	ロンバク
罹患	ラカン	リカン	統帥	トウソツ	トウスイ
該当	カクトウ	ガイトウ	世子	セシ	セイシ

◇◇◇ 家庭録音 Q&A ◇◇◇

Q マイクの距離15センチで読んでいますが、「ピチッ、ピチィ」と口の中の音も録音されています。何かよい方法はありませんか。

A マイクと口の距離が近くなると、口の中の音も録音されることとなります。口の中の音は、かなり個人差があり、殆ど目立たない人もあれば、かなり気になる場合もあります。後者の場合、マイクの距離を20センチ～25センチと、少し、離すようにしましょう。それでもかなり気になる音が入るようなら、マイクの角度や、位置を変えると良いでしょう。角度を変える時には、図1を参照してください。

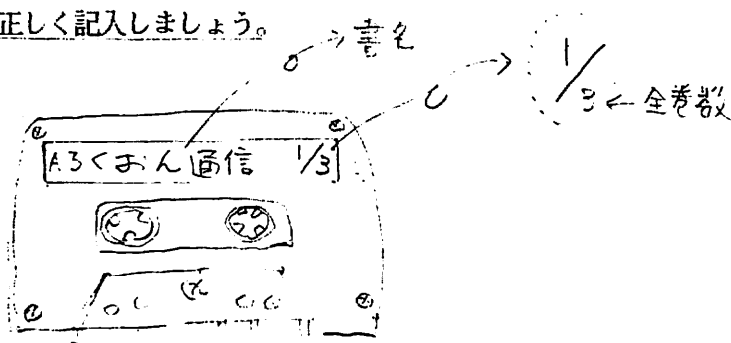
(図1)



Q 新しくマイクを購入しようと思いますがどんな物がいいのでしょうか。

A マイクは、単一指向性と、無指向性の2種類があります。録音用としては周囲の音をあまり拾わない単一指向性のマイクを購入してください。また、マイクには、コンデンサーマイクロフォン (乾電池が必要) とダイナミックマイクロフォン (電池不要) があります。コンデンサーマイクロフォンを使用されるときは、電池の寿命がありますので注意してください。価格の目安は、テープレコーダーの2～3割くらい、5000円～7000円前後のもので充分です。あまり高級なものも unnecessary です。

カセットラベルは正しく記入しましょう。



— 係からのおしらせ —

校正表 (A表、B表) の記入について。

校正表は、A表とB表の2種類あります。B表には、図・表などで処理に問題があるもの、聞き手が分かりにくいもの、録音状態に問題があるもの、などをあげるようにしてください。その際、A表にも、該当のページを記入し、「→B表」と記入するようにしてください。B表はファイルせず、職員に提出してください。また、B表に、音訳者名を記入する欄がありませんが、必ず音訳者名も書くようにしてください。音訳者は、校正表 (A表) に「→B表」とありましたら、職員に「B表」をもらってください。

校正表 (A表)

P	行	面	時間	原文	
10	8	B		○○○…………	…………
10	-2	B		→B表	
15	10	B		*****……	…………

「来館ボランティア連絡ニュース」を発行します。

今まで、『ろくおん通信』の「係からのお知らせ」のコーナーで、事務連絡や体制の変更点などを掲載していましたが、今後、この「来館ボランティア連絡ニュース」で、必要な事項はお知らせしていくことにします。この「連絡ニュース」は入口の個人ボックスに入れるようにします。来館時には必ず個人ボックスを見るようにしてください。

編集後記 うっかり のんびり おっとり…。いろいろな性格の仲間がいます。昨今の東欧情勢並みのめまぐるしい事務処理の変化でとすると、この愛すべき人柄の人達の仕事ぶりが指摘されるものになります。それぞれの立場があるので、無理もないことなのでしょう。

何はともあれ、今までよりも少し意識をかえる必要があるようです。

ぼんやりの (土田)

一、漢文は動文

榮養美肌素

文英美顔液

(動を働かせてみよう)

二、漢文は簡文

(漢文は短文の積み重ね)

三、漢文(語)の構造

【日本語と語順が同じもの】

①主語——述語 の関係にあるもの 「何が——何スル」

日没 炎上 雷鳴

②修飾語——被修飾語 の関係にあるもの

イ、連体修飾 の関係 「トシナ——何」

愛児 引力 遠路

ロ、連用修飾 の関係にあるもの 「トノヨウニ——何スル」

暗示 永住 輕視

③並列 の関係にあるもの

意味が似ていたり、意味が反対だったりする二字を対等に並べて漢語にしたもの

イ、似た意味の二字を重ねて、一つの意味をはっきりさせる

委任 巨大 移動

ロ、同じ範囲にはいる二字を重ねて、その両方の意味を表すもの

山川 耳目 昆聞

ハ、意味が反対だったり対立したりする二字を重ねて、両方の意味を表すもの

有無 往復 好悪

【日本語と語順が違うもの】 この構造のものが、めんどうである。

④述語——補足語 の関係にあるもの

「読書」という漢語は、「読む」が述語で、何を読むかという目的語は「書(を)」である。

この場合、日本語なら「書を読む」という語順になる。したがって、日本語とは語順が異なっている。このように、述語の下に目的語や補語がきて漢語になっているものを、「述語——補足語

の関係」にある、という。なお、「補足語」または「補語」を「客語」ということもある。なお、

漢語の補足語は、日本語では修飾語になる。

◎握手(手ヲ握ル) 安心(心ヲ安ソシル) 育児(児ヲ育てる)

◎応募(募ニ応ヅル) 赴任(任ニ赴ク) 就職(職ニ就ク)

【その他】

⑤特殊な関係 にあるもの

日本語の構造と同じものと、違うものがある。

イ、上に否定の字をつけて、下の字の意味を打ち消すもの

不——不安 不潔 不幸

無——無限 無念 無敵

非——非常 非凡 非力

未——未開 未婚 未来

ロ、上に「所・被」をつけて、下の字の動きを受けるもの

所——所感 所持 所信

被——被害 被告 被災

ハ、下に「然・如」などを付けて、上の字の表す状態を受けるもの

然——依然 偶然 (然||の様子)

如——欠如 躍如 (如||然)

爾——崇爾 率爾 (爾||然)

乎——断乎 確乎 (乎||強意。今は固で代用)

ニ、同じ字を重ねて、動作や状態をよりはっきりさせるもの

營營 往往 喜喜 (日本語では「営々」と書く)

ホ、語頭に同じ字音を用いる漢字を重ねて、状態を形容するもの(双声という)

恍惚 憔悴 零落

ヘ、同じ韻をもつ漢字を重ねて、状態を形容するもの

混沌 徘徊 散漫

ト、古人の言葉や故事などに基づくもの

杞憂 矛盾

四、漢文を読むには

1、直接に日本語で読んでみよう

国 破 山 河 在。

孤 帆 遠 影 碧 空 尽。

2、返り点 (トノホ返りのサイン)

①し点 (一字上に返る)

不^レ足^ヲ。 田 中^ニ有^リ株[。] 知^ル惡^ノ之^ヲ。 傍^ニ若^シ無^ク人[。]

②一 二点 (二字以上離れた下の字から、上の一字に返ること)

登^ル劍 岳^ニ。 君 子^ニ有^リ三 樂[。] 西^ニ出^テ陽 関^ヲ無^ク故 人[。]

三 四がある時も、...

天 帝 使^ム我^ヲ長^シ百 獸^ニ。

③上下点 (一二点をつけた語句を間にはさんで、さらに下から返って読む)

下 為^ニ兒 孫^ノ買^フ美 田^ヲ。 欲^ス与^ニ常 馬^ニ等^シ。

④二字熟語の時(漢字二字で一語となっている)

兼^テ罪^ヲ典 衣^ヲ与^ニ典 冠[。] 改^メ築 宮^ヲ師^ニ事^ス之[。]

3、送り仮名 (漢字の右下で片仮名) —— 鬼(ヲ・ニ)にあつたら逃げよ

五、読む時に注意する漢字

1、助字

①於・干・乎 (方向・位置・時・原因・対象などをあらわしたり、目的や比較の意味を表す)

(オ・ウ・コ) ふつうは、読まない)

人 於 井。 志 干 学。

②而 (シ) (接続詞の働きをする。特に意味をはっきりさせたい時は「しこうシテ、しかも」などと読むこともある)

亡^レ而^レ入^ル胡^ニ

③也 (ヤ) (文末について「なり」と読み、断定を表す。文中や文末で「や」と読んで、疑問・反語・詠歎やツヨメをあらわすこともある)

是^レ亦^ク走^ル也。 何^ヲ為^ス不^レ去^ラ也。 今^ヤ也 則^チ亡^レ

④矣 (イ) (文末について、断定・確認の意味を表す)

秦^ニ必^ズ破^レ矣。

⑤焉 (エン) (文末について、断定を表す。ふつうは読まない)

王^ハ天^下不^レ与^ス存^ス焉。

⑥邪・耶・乎・与・哉・夫 (「邪・耶・乎・与」は「や・か」と読んで、疑問・反語・詠嘆を表す。

(「ヤ・ヤ・コ・ヨ・サイ・フ」 「哉・夫」は「かな」とよんで詠嘆。「哉」は「や」とも読む。

雲^ハ耶^ハ山^ハ耶。 可^ク謂^フ仁^ニ乎。 嗚^呼、哀^シ哉。

2. 再読文字

①未 (いまダくず) 読^ム未^ダ曾^ダ見^ル之^ノ書^ヲ

②將・且 (まさニくず・まさニくントす)

將^レ限^ル其^ノ食^ヲ 趙^ノ且^レ伐^ス燕^ヲ

③当 (まさニくべシ) 及^キ睦^ニ当^テ勉^ム勵^ス

④応 (まさニくべシ) 応^ズ知^ル故^ノ郷^ヲ 駕^ス馬^ヲ

⑤宜 (よろシくべシ) 惟^テ仁^者宜^ク在^ル高^位

⑥須 (すべカラクべシ) 須^ク常^ニ思^フ病^苦時^ヲ

⑦猶 (なほくごとシ・なほくがごとシ)

過^ル猶^モ不^レ及^ハ

⑧蓋 (なんゾくざル) 蓋^シ各^ノ言^ハ爾^ノ志^ヲ

練習習自

1. 山^ノ高^故不^レ貴^シ 以^テ有^ル樹^ヲ為^ス貴^シ 人^ノ肥^故不^レ貴^シ 以^テ有^ル智^ヲ為^ス貴^シ

2. 源^ノ義^経乍^レ恐^ル申^上意^趣者^ハ被^テ撰^御代^官其^一為^ス勅^宣之^御使^ト

傾^朝敵^頭累^代弓^箭勢^器会^稽恥^辱可^ク然^レ行^ス忠^實處^思外^依

虎^口議^言然^レ莫^ク太^勲功^ト (腰越扶より)

不 出 門
不 出 門 來 又 數 句
將 何 銷 日 與 誰 親
鶴 籠 開 處 見 君 子
書 卷 展 時 逢 古 人
自 靜 其 心 延 壽 命
無 求 於 物 長 精 神
能 行 便 是 真 修 道
何 必 降 魔 調 伏 身

(白 樂 天)

不 出 門
一 從 謫 落 在 柴 荆
萬 死 兢兢 跼 踖 情
都 府 樓 纔 看 瓦 色
觀 音 寺 只 聽 鐘 聲
中 懷 好 逐 孤 雲 去
外 物 相 逢 滿 月 迎
此 地 雖 身 無 檢 繫
何 爲 寸 步 不 出 門

(普 原 道 良)